

# 新しい前立腺癌腫瘍 マーカーのご紹介

前立腺癌は、男性の癌の中で一番罹患率が高く、50歳以上の方に多い癌です。ゆっくり進行する事が多く早期では根治可能で、他の癌に比べ予後は良いとされていますが、早期では無症状の事も多く、骨転移などをきたし進行した状態で発見される方もいまだにいらつしやいます。

早い段階で癌を見つける利点は、手術、放射線療法とも根治性が高く5年生存率も100%近くと予後良好ですが、骨やリンパ節に転移を認める進行癌では50%台まで低下します。このコラムを読まれている方の中にも前立腺腫瘍マーカーであるPSA(前立腺特異抗原)を測定する血液検査を受けられた方がいらつしや

るかと思えます。

一般にPSAが4.0ng/mLを超える癌が疑われますが、精密検査として針生検を実施しても、PSA値が4〜10ng/mLのグレーゾーンと呼ばれる基準値を軽度超えた領域では、癌陽性率は20〜28%程度にとどまります。PSA値は良性疾患である前立腺肥大症や前立腺炎でも上昇するからです。PSA値が高ければ癌の可能性も高いのですが前立腺針生検は痛みや出血、感染を伴う事もあり、癌発見率の向上が課題となっております。

新しい腫瘍マーカーの誕生が待ち望まれていましたが、本年2月S2、3PSA%検査が保険収載され使用可能となり

ました。PSAの研究で、正常の前立腺と前立腺癌では糖鎖と呼ばれる構造が異なることがわかり、弘前大学で開発された腫瘍マーカーです。PSA検査された腫瘍マーカーとして受けていた陽性の方に二次検査として受けていただき、前立腺MRI検査も併用する事により、PSAグレーゾーン(4.0〜10)の方の癌陽性率は76%まで上昇との報告もあり、診断精度の向上が期待されます。

患者さんの負担を減らす意味でも不要な生検を減らしたいと考えています。どうぞお近くの泌尿器科にご相談ください。



市立函館病院

泌尿器科

西村 祥二 医療部長・科長

## 略歴

平成2年、弘前大学医学部卒業、平成6年、同大学院医学研究科修了後、弘前大学附属病院泌尿器科、鷹揚郷腎研究所青森病院、鷹揚郷腎研究所弘前病院、青森県立中央病院泌尿器科などで勤務。平成12年より市立函館病院で勤務し、令和5年4月、医療部長に就任した。日本泌尿器科学会泌尿器科専門医。